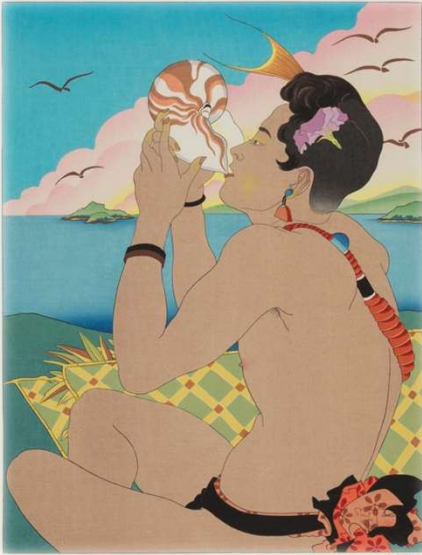


LEVEL
4

ポール・ジャクレー

かる いざわ あい じん ぞくへん
~ 軽井沢を愛したフランス人 [続編] ~



© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023



朗読音声のダウンロード
Audio download

よ まえ ★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む

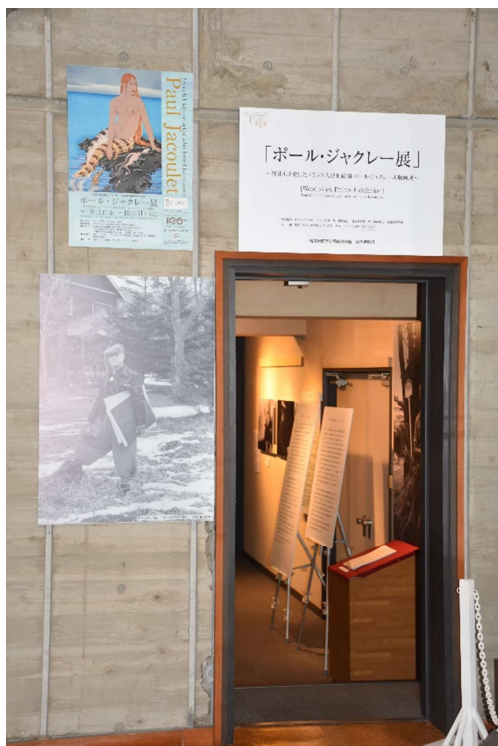


《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





かるいざわまちれきしんぞくしりょうかん
軽井沢町歴史民俗資料館
[ポール・ジャクレー展]
(2023年)



はい！ここにきてからもう二年も経ちました。ジャクレーさんも、私と同じように、東京から軽井沢に引っ越してきたんですね。



香葉ちゃん、久しぶり。軽井沢の生活には、もう慣れましたか。



こんにちは。私は、香葉です。軽井沢に住む、小学五年生です。今年もジャクレー展が始まったので見に来ました。



くつかけ かるいざわ ねん
沓掛・軽井沢 (1948年)



あさまやま かるいざわ ねん
浅間山・軽井沢 (1949年)

ジャクレーのスケッチ



そうですね。外国人だから、いつも警察に見張られて、日本人と自由に話すことも難しかったです。



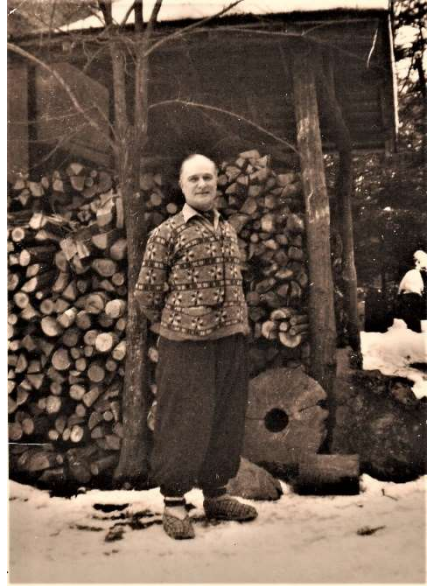
戦争中に、外国に住むのは大変だっただろうなあ。



はい。一九四一年に太平洋戦争が始まりました。そして、一九四四年に東京から軽井沢に避難してきました。ジャクレーは、四十八才でした。



はたけ らきょうだい ねん
畑で・羅兄弟 (1946年)
らきょうだい さんしやう
※ 羅兄弟 p.8 参照



じたく まえ た ねん
自宅の前に立つジャクレー (1947年)



助けあって暮らしていたんですね。

ともあったそうです。

ジャクレーがお礼に版画をあげたこ
農家の方にお米などを分けてもらい、
や山羊も飼っていました。

ジャクレーは、知り合いの別荘を借
りました。そして、畑でカボチャや
じゃがいもなどの食べ物を作り、鶏





ねん
(1944年)



うめ ねん
「梅」 (1946年)



ねん
「もみじ」 (1944年)



すてきな絵え！



大変なときでも、ジャ
クレーは、絵を描くの
をやめないで、身近な
植物のスケッチをして
いました。版画になっ
ていませんが、美しい
植物のデッサンや水彩
画が残されています。



© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023

はなが さぼてん なんよう ねん
版画「仙人掌、南洋」（1941年）



きれいな花と蝶です
ね！



人物が描かれた作品をよく見ると、人物と一緒に植物を描いているものも多いです。植物だけの絵は珍しいですが、こんな版画もあります。



ジャクレーさんは、世界の色々な国の人々の絵で有名です。でも、植物の絵も描くんです。



ちようねん
蝶をとるジャクレー（1952年）



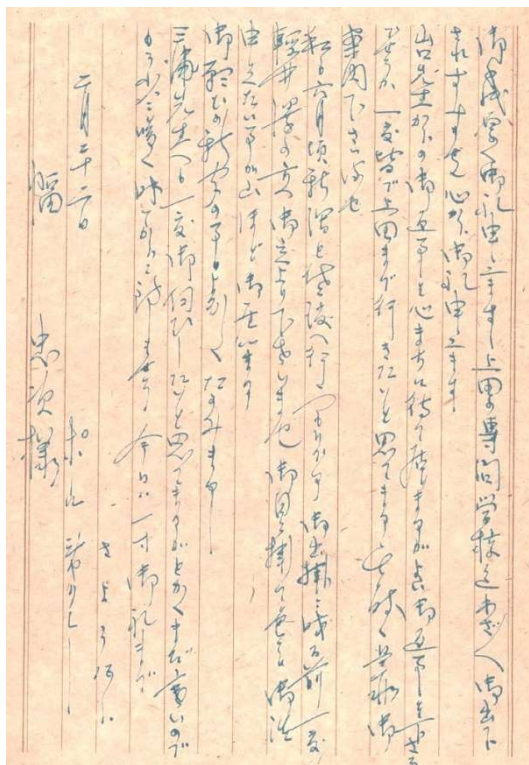
ちよう
蝶のジャクレーさん！



ジャクレーは、蝶ちようのコレクターでもあったんですよ。南洋なんようへの旅行りよこうのあと、世界せかいの蝶ちようを集めるあつことに熱中ねっちゅうしています。軽井沢かるいざわでも網あみと籠かごを持って蝶ちようをとっていたので、蝶ちようのジャクレーさん、と呼ばれてよいたそうですよ。



ジャクレーは、軽井沢で暮らした
 新聞記者で写真家の幅北光と交流
 がありました。



ジャクレーが幅北光に出した手紙

幅北光の『軽井沢ものがたり』とい
 う本の中に、こんな話が書かれてい
 ます。

「ジャクレーは、戦争が終わったこ
 とを知ると、虫とり網を持って、
 碓氷峠に蝶をとりに出かけました。
 警察に、「ジャクレーさん、蝶を
 とって何に使うのか？」と聞かれる
 と、「おなかが減ってしかたがない
 から、蝶でもとって食べようと思
 う」とおもしろおかしく答えたそう
 です」

ポール・ジャクレーと羅兄弟



かるいざわ じたくまえ かぞく ねん
 軽井沢の自宅前 家族とともに (1954年)

ぜんれつひだり とみたせいぞう ら ちせい
 前列左から、 富田聖三、羅智靖

れつめひだり らりゅうかん ぜんきね ら えいかん
 2列目左から、羅龍煥、全奇礼、羅永煥

れつめひだり
 3列目左から、テレス、ポール・ジャクレー

一九三二年に、朝鮮半島南部出身の羅永煥が、ジャクレーの助手になりました。四年後には、羅永煥の弟（羅龍煥）も来日して、ジャクレーは二人とともに暮らすようになりました。その後ジャクレーは、羅永煥の長女テレスを養女におかえました。羅兄弟は、ジャクレーの生涯にわたる助手、家族になりました。信心深いキリスト教徒だったジャクレーは、聖パウロ教会や幼稚園のために多くの寄付を行いました。



© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 ES023

はんが 版画 「ジャングルからの帰り、トンダノ、セレベス島」 (1948年)



一九四五年に戦争が終わります。アメリカ人のコレクターで、戦前から友人であるスミス・ハットンが、ジャクレーの作品がすばらしいことを認めていました。戦後 GHQ (General Headquarters) の将校として日本に来ると、ジャクレーに食料や版画の材料を提供してくれました。ジャクレーは、一九四七年から、版画制作を再開します。戦争の前に南洋で描いた絵をもとに、版画を作ったんですね。



かるいざわ いえ
ジャクレーの軽井沢の家
ねんげんざい
(2023年現在)



これがそのアトリエですか。



ジャクレーの浮世絵は、大人気で、
たくさんアメリカ軍の関係者が、
アトリエの前に行列を作りました。



近くで摺りを確認しながら、作品を
仕上げられるようにしたんですね。



せんきゅうひやくよんじゅうはちねん
一九四八年、軽井沢に、アトリエ
のある家を建てて、
摺師を軽井沢
に招きました。

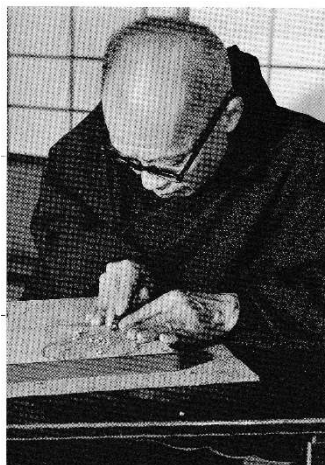


ジャクレーは、軽井沢に来てから
亡くなるまでに、七十七点の版画
を制作しています。



© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 ES023

版画「ゴビの星、モンゴル女性」(1951年)



彫師 前田謙太郎 (東京)



摺師 小野寺芳造 (軽井沢 1954年)



ひすい ちゅうごく はんぎ
「翡翠、中国」の版木



それぞれそれぞれの版木はんぎに色いろをつけて、
少しすこずつ色いろを重ねかさて版画はんがを仕上しあげ
ます。



版木はんぎですか？



「翡翠ひすい」という作品さくひんの版木はんぎですよ。



とても細ほそい線せん。
女おんなの人の絵えが見みえますけど。



香葉かよちゃん、これはアトリエに残のこ
されていたものです。何なんだか分わか
る？



6



35



39



40



55



60

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023

はんが ひすい ちゆうごく
版画「翡翠、中国」 (1940)

ぜんこうてい うち まい がぞう
全工程60の内 6枚の画像



この色がここで、
この色がここで……。
見比べると面白い！



ねん ほんが たいへいよう しんぴ なんよう ねん
版画 「太平洋の神秘、南洋」 (1951年)



ねん かるいざわ
軽井沢のアトリエにて (1954年)



むずか
ずれない様に摺るのも、とっても
難しそうですね。

すりし
摺師も、ジャクレーの望み通りの
いろを出すのが大変だったと言っ
ています。



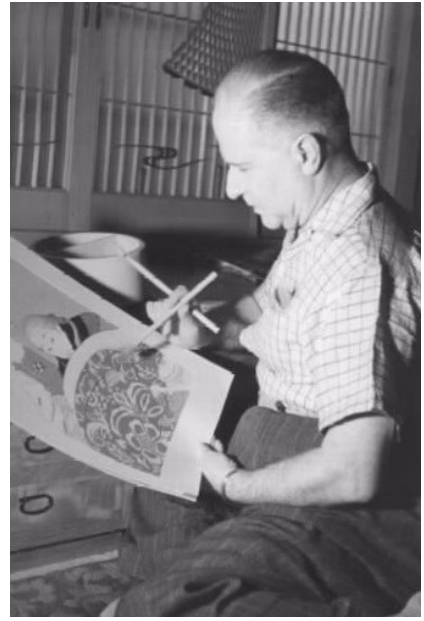
なんかい
何回も色を重ねました。
ひと
ジャクレーは、色にとってもこだわ
り、一つの色を出すのに、何回も



さくひん
ジャクレーさんの作品は、色がき
れいなあ。



はんが がつ にほん ねん
版画「12月、日本」(1953年)



かるいざわ ねんごろ
軽井沢のアトリエにて(1953年頃)

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023



戦争の前後で、ジャクレーさんの作品に変化はあったのかな？

この絵を見てください。背景の雪景色は、自宅でのスケッチがもとになっています。



戦後も軽井沢で制作を続けたジャクレーは、色々な国の老若男女を描いています。美しく服を着た豊かな人だけでなく、普通の人、貧しい人も描いています。



くろ れんげ ちゆうごく ねん
「黒い蓮華、中国」 (1959年)



こころ あらし かんこく ねん
「心の嵐、ソウル、韓国」 (1948年)



とう ちようこくし なんよう ねん
「トコベイ島の彫刻師、南洋」 (1954年)



はい うつわ ほっかいどう ねん
「ミルクの入った器、北海道のアイヌ」 (1958年)



戦争の
戦後、
描いた
弱になり、
を中心とする
多く登場
後、
木版画
かわりに
アジア人
が
南洋の
は四分
の
一人
を
韓国



はんが まよなか いの じん そう
版画「真夜中の祈り、モンゴル人のラマ僧」
ねん
(1959年)



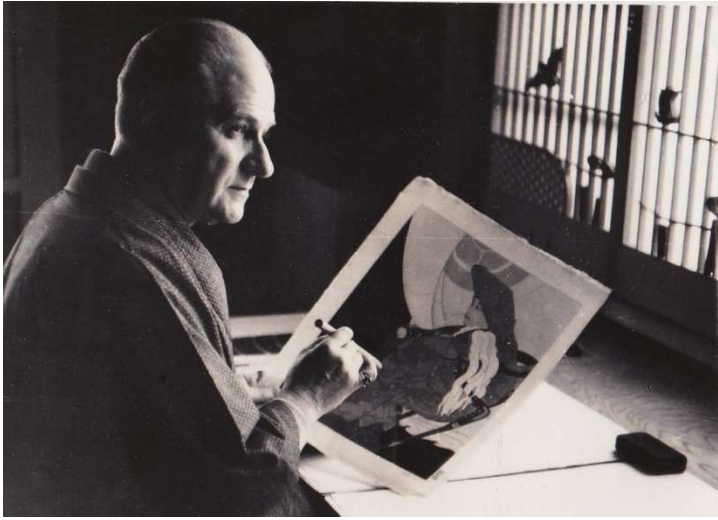
はんが い がみ ながの ねん
版画「生き神さま、長野」 (1952年)



せんそう
戦争を経験して、心境の
へんか
変化があったのかなあ。



また、修行僧など、宗教
的なものを描くことも多
くなっています。



かるいざわ ねん
軽井沢のアトリエにて（1953年）



ジャクレーは、せんきゅうひやくろくじゅうねん ろくじゅうよん
オで亡さいくなりましたが、版画はんがのため
の下絵したえが、たくさん残のこされています。



さらに新あたしいモチーフを求もとめたんで
すね。



版画はんがは大人気だいにんきでよく売うれましたが、
ジャクレーは、せんきゅうひやくごじゅうよねん
題材だいざいを求もとめて、世界旅行せかいりょこうに出発しゅつぱつしま
す。



ジャクレーは、家族と夕方に散歩をするのを日課にしてみました。
 まんべいどお 万平通りを下りて、矢ヶ崎川に沿って、三度山の麓や音羽の森のあたりまで
 ある 歩いていたそうです。



かるいざわ ちず きゅうかるいざわ
 軽井沢の地図 (旧軽井沢)



せい きょうかい
 聖パウロ教会



うすいとうげ
 碓氷峠

これまでに出てきたジャクレーと
 かんけいのある場所を、地図で確認し
 てみましょう。
 おも 主に、旧軽井沢と呼ばれるところ
 ですね。



かるいざわ あさまやま ねんなつ
軽井沢・浅間山 (2022年夏)



いいですね。応援してますよ！



国や時代を超えて、新しいことに挑戦するジャクレーさんは、カッコいいと思いました。香葉も何か挑戦してみたくまりました。



それは良かったですね。



自分の住んでいる町に、こんな人が住んでいて、こんな歴史があったんだと知ることができて良かったです。

ジャクレーの言葉

ことば





© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 ES023

はんが きひんせき ねん
版画「貴賓席」(1942年)

だいはりょうさく れんさく まんしゅうきゅうていのおうじょ ごさくひん ひと
(ジャクレーの代表作、連作「満州宮廷の王女たち」の五作品のうちの一つ)

『それ「満州セット」は、ひどく
 困難かつ大きな仕事となるでしょう。
 この連作は頭抜けて価値のある
 絢爛豪華なものになるでしょう。
 私は自分の名が今日の錦絵の歴史
 に残ることを願っています』

※ 『軽井沢を愛したフランス人浮世絵師
 ポール・ジャクレー 全木版画展』 軽井沢
 町追分宿郷土館(2021), p.66より)

『多色摺木版画は音楽のようなものだ。画家、彫師、摺師の間のハーモニーが無ければ、すばらしい絵を作り出すことはできない』

※ Florenc Wells, Paul Jacoulet Wood-block Artist, The Foreign Affairs Association of Japan, 1957, pp.35-36

『何かより深いものが表現されているものでなければ、私の版画は失敗です。……芸術には大きなものが期待されており、人の心を動かし、思索や幸福感や哀感へと導いてくれるものでなければなりません』

※ Paul Jacoulet, Stewart J Teaze ed., Histoire de ma vie et mon oeuvre, 1941 (Autobiography of Paul Jacoulet, 19 pages, Unpublished English manuscript), p7

ポール・ジャクレー
かる い ざわ あい じん ぞくへん
～軽井沢を愛したフランス人 [続編] ～

発行日：2024年2月10日

つかごしさえ
作：塚越紗衣（NPO多言語多読準会員、軽井沢町地域おこし協力隊、日本語講師）

イラスト：井出智子

写真提供：ポール・ジャクレー遺族

スケッチのサイズ：27.8×22.8cm（p2, 4）

版画のサイズ：39.2×30.0cm（p5, 9, 11, 14, 15, 16, 17）

監修：NPO多言語多読

協力：稲垣＝ジャクレー・テレズ（ポール・ジャクレー遺族・養女）

富田聖三（ポール・ジャクレー遺族）

猿渡紀代子（美術史家・元横浜美術館学芸員）

軽井沢町歴史民俗資料館

追分宿郷土館

軽井沢高原文庫

<参考資料>

- 『Paul Jacoulet ポール・ジャクレー全木版画集』阿部出版(2020)
- 『軽井沢を愛したフランス人浮世絵師 ポール・ジャクレー全木版画展』軽井沢町追分宿郷土館（2021）
- 『フランス人が挑んだ新版画 Paul Jacoulet ポール・ジャクレー』太田記念美術館（2023）
- 幅北光『軽井沢ものがたり—私が知った高原の町』信濃路 東京農山漁村文化協会（1973）



NPO多言語多読

tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>